

1 モンゴルの襲来と日本①

教科書
p.76～77

学習目標

- モンゴル帝国の成立過程について理解する。
- モンゴル帝国の拡大がユーラシア世界に与えた影響について考える。

評価規準の例

- モンゴル帝国の成立と拡大の様子を、地図などから読み取っている。(技能)
- モンゴル帝国の拡大により、ユーラシア世界が一つにまとまるようになったことに気付いている。(知識・理解)

資料解説

① 1 モンゴル軍との戦い

蒙古襲来絵詞は、肥後の御家人竹崎五郎兵衛季長(資料右の騎馬武者)が、元寇での自己の奮戦の様子を記録させたもので、地元の甲佐大明神に奉納したものであったといわれている。

資料からモンゴル軍との服装や武器、戦法の違いを読み取らせたい。

特に、資料中央の「てつはう」、元軍の「短弓」、矢服(矢筒)」、頭の「冑」、投げ槍」、日本軍の「長弓」、「騎馬」に着目させたい。

〈戦法等〉 元 軍：集団戦法、火薬の使用

日本軍：一騎打ち

② 2 博多湾に復元された防壁

文永の役の後、元軍の上陸を防ぐため、幕府が九州の武士を動員して博多湾沿岸に東西約20kmにわたって築いた。労役や費用の負担は、領地1段につき石塁1寸の割り当てを命じたという。さらに、兵船なども準備させ、一定期間交代で指定の要害地を警備させる異国警固番役を課した。

③ 3 フビライの国書

1268年の「蒙古国牒状」の一部。この文面から、元側の意図を読み取らせたい。

④ 4 フビライ・ハンと北条時宗

フビライ・ハン(元)の初代皇帝で、南宋を滅ぼして中国全土を支配した。高麗を従え、日本の征服を狙ったが失敗した。

北条時宗は、第8代執権で、18歳の時に執権に就任した。フビライの送る使者の要求を数度にわたり黙殺し、文永の役後の1275年、鎌倉までやってきた元の使者5名を処刑した。また、禅宗を信仰し鎌倉に円覚寺を建立した。

⑤ 5 アクセス ユーラシア世界史の誕生

モンゴル高原には、古くから遊牧民族が住んでいた。

13世紀初め、テムジンがモンゴル民族を統一し、チンギス・ハンと名乗った。その後、モンゴル帝国は領土を拡大し続け、世界最大の帝国になった。モンゴル帝国の拡大は、東アジアだけでなく、ヨーロッパにも影響を与えた。5代目のフビライが、中国の宋を滅ぼして元が建国されると、領土がアジアとヨーロッパにまたがる大帝国になった。ユーラシア大陸全体に、一つの国による世界が築き始められたことにより、東西の交通が盛んになっていった。

元の襲来が、こうした世界史の中で起こった出来事であることを生徒に捉えさせたい。

⑥ 6 モンゴル帝国の拡大

チンギス・ハン時代の遠征経路や、モンゴル帝国の最大領域から、モンゴル帝国の支配域がユーラシア大陸の大部分に及んでいたこと、そのことにより東西の交通が盛んになったことなどに気付かせたい。

⑦ 7 弘安の役

弘安の役では、日本側の準備が整っていた上に、一緒に日本を攻める予定であった東路軍(高麗と元軍)と江南軍(旧南宋の軍と元軍)の日本到着の行き違いや(旧南宋の人々が抵抗し、出発が遅れた)、暴風雨も重なり失敗した。

⑧ 8 永仁の徳政令

徳政令の内容から、御家人の生活が苦しくなっていることに気付かせたい。資料は、1297(永仁5)年の永仁の徳政令である。鎌倉時代後期、御家人は分割相続を重ねたため、所領が細分化され、収入が激減した。徳政令の内容は、①再審を禁止する。②御家人の売却した土地のうち20年未満のものは、元の持ち主に返す。③利子付きの金銭貸借については、今後一切の債権取り立ての訴訟は受け付けない、というもので土地取得者や債権者にとっては納得しがたい内容だった。

○フビライ・ハン

- ・皇帝になり、国号を元と定める
- ・都を大都(北京)に移す
- ・宋をほろぼし、中国全土を支配

〈ユーラシア世界の形成〉

- 東西を結ぶ交通路(陸路・海路)
- 東西の交流
 - ・商人、各国の使節、キリスト教の宣教師
 - ・マルコ・ポーロ「世界の記述(東方見聞録)」
 - ・元からヨーロッパへ→焼き物、火薬、羅針盤など
 - ・西アジアから元へ→イスラム教、天文学など
 - ↳ユーラシア世界が一つにまとまる

学習内容	学習活動	指導上の留意点
モンゴル帝国の成立 [10分]	①【資料提示】【発表】「現在のモンゴル高原」の写真を提示して、モンゴルの人々の生活の様子について知っていることを発表させる。 生徒の反応 ◆移動生活 ◆パオ ②【発表】チンギス・ハンについて知っていることを発表させる。 生徒の反応 ◆モンゴル民族 ◆モンゴル帝国	●地理的分野の学習を基に発表させる。 ●「ハン」とは、遊牧民族の支配者の称号であることを説明する。
モンゴル帝国の拡大 [20分]	③【資料提示】【作業】資料5を提示して、現在だとどのような国がモンゴル帝国の範囲の中にあるか確かめさせる。 生徒の反応 ◆中国西部や西アジア、東ヨーロッパ ④【資料提示】「2世紀ごろの東アジア」(教科書p.35資料7)、「東西の交通」(教科書p.46資料1)を提示して、モンゴル帝国と漢・唐の範囲を比較させる。 ⑤【説明】モンゴル帝国の拡大の過程と元の成立について説明する。	●地図帳を活用する。 ●歴史上、ほかにこのように広い領土を持った国がなかったことに気付かせる。 ●資料5からチンギス・ハンとフビライ・ハンの遠征経路の違いに気付かせる。
ユーラシア世界の形成 [15分]	⑥【話し合い】モンゴル帝国の拡大によって、どのような影響があったのか話し合わせる。 生徒の反応 ◆東西交通の整備 ◆東西文化の交流 ⑦【資料提示】「世界の記述(東方見聞録)」を読ませ、当時の日本がヨーロッパにどのように紹介されたのかを捉えさせる。	●ユーラシア全体が一つにまとまったことに気付かせる。 ●元からヨーロッパに伝わった文物などを例示する。 ●資料5からマルコ・ポーロの行路を確認させる。
学習のまとめ [5分]	⑧【作業】「元とヨーロッパ・西アジアとの交流について、次の二つの内容からそれぞれ説明しましょう。」 [①人 ②物] 解答例：①商人や各国の使節、キリスト教の宣教師などが、陸路・海路を行き交った。②元から焼き物や火薬、羅針盤などがヨーロッパへと伝えられた。	

展開例

学習課題

モンゴル帝国はどのようにして拡大していったのでしょうか。また、それによってユーラシア全体にどのような変化が見られたのでしょうか。

板書例

1. モンゴルの襲来と日本①

モンゴル帝国はどのようにして拡大していったのでしょうか。また、それによってユーラシア全体にどのような変化が見られたのでしょうか。

〈モンゴル帝国の成立〉

- チンギス・ハン
 - ・モンゴル民族を統一(13世紀初め)
 - ・モンゴル帝国の成立

〈モンゴル帝国の拡大〉

- 子孫→朝鮮半島からヨーロッパまで攻める
- ・史上最大の帝国



1 モンゴルの襲来と日本②

教科書
p.76 ~ 77

学習目標

- モンゴル帝国の襲来と日本の対応について理解する。
- 鎌倉幕府が滅亡した理由を、モンゴル帝国の襲来の影響や社会の変化から考える。

評価規準の例

- モンゴル帝国の襲来が国内の政治におよぼした影響を、御家人の動きから考察している。(思考・判断・表現)
- 絵画資料から、モンゴル軍の特徴を読み取っている。(技能)

資料解説

① 1 モンゴル軍との戦い

蒙古襲来絵詞は、肥後の御家人竹崎五郎兵衛季長(資料右の騎馬武者)が、元寇での自己の奮戦の様子を記録させたもので、地元の甲佐大明神に奉納したものであったといわれている。

資料からモンゴル軍との服装や武器、戦法の違いを読み取らせたい。

特に、資料中央の「てつはう」、元軍の「短弓」、矢服(矢筒)」、頭の「冑」、投げ槍」、日本軍の「長弓」、「騎馬」に着目させたい。

〈戦法等〉 元 軍：集団戦法、火薬の使用
日本軍：一騎打ち

② 2 博多湾に復元された防壁

文永の役の後、元軍の上陸を防ぐため、幕府が九州の武士を動員して博多湾沿岸に東西約20kmにわたって築いた。労役や費用の負担は、領地1段につき石塁1寸の割り当てを命じたという。さらに、兵船なども準備させ、一定期間交代で指定の要害地を警備させる異国警固番役を課した。

③ 3 フビライの国書

1268年の「蒙古国牒状」の一部。この文面から、元側の意図を読み取らせたい。

④ 4 フビライ・ハンと北条時宗

フビライ・ハンは元の初代皇帝で、南宋を滅ぼして中国全土を支配した。高麗を従え、日本の征服を狙ったが失敗した。

北条時宗は、第8代執権で、18歳の時に執権に就任した。フビライの送る使者の要求を数度にわたり黙殺し、文永の役後の1275年、鎌倉までやってきた元の使者5名を処刑した。また、禅宗を信仰し鎌倉に円覚寺を建立した。

⑤ 5 アクセス ユーラシア世界史の誕生

モンゴル高原には、古くから遊牧民族が住んでいた。

13世紀初め、テムジンがモンゴル民族を統一し、チンギス・ハンと名乗った。その後、モンゴル帝国は領土を拡大し続け、世界最大の帝国になった。モンゴル帝国の拡大は、東アジアだけでなく、ヨーロッパにも影響を与えた。5代目のフビライが、中国の宋を滅ぼして元が建国されると、領土がアジアとヨーロッパにまたがる大帝国になった。ユーラシア大陸全体に、一つの国による世界が築き始められたことにより、東西の交通が盛んになっていった。

元の襲来が、こうした世界史の中で起こった出来事であることを生徒に捉えさせたい。

⑥ 6 モンゴル帝国の拡大

チンギス・ハン時代の遠征経路や、モンゴル帝国の最大領域から、モンゴル帝国の支配域がユーラシア大陸の大部分に及んでいたこと、そのことにより東西の交通が盛んになったことなどに気付かせたい。

⑦ 7 弘安の役

弘安の役では、日本側の準備が整っていた上に、一緒に日本を攻める予定であった東路軍(高麗と元軍)と江南軍(旧南宋の軍と元軍)の日本到着の行き違いや(旧南宋の人々が抵抗し、出発が遅れた)、暴風雨も重なり失敗した。

⑧ 8 永仁の徳政令

徳政令の内容から、御家人の生活が苦しくなっていることに気付かせたい。資料は、1297(永仁5)年の永仁の徳政令である。鎌倉時代後期、御家人は分割相続を重ねたため、所領が細分化され、収入が激減した。徳政令の内容は、①再審を禁止する。②御家人の売却した土地のうち20年未満のものは、元の持ち主に返す。③利子付きの金銭貸借については、今後一切の債権取り立ての訴訟は受け付けない、というもので土地取得者や債権者にとっては納得しがたい内容だった。

展開例

学習内容	学習活動	指導上の留意点
モンゴル帝国襲来の背景 [5分]	①【資料提示】資料③を読ませ、フビライ・ハンの要求内容を捉えさせる。	●資料④を活用し、北条時宗の対応について説明する。
二度の襲来 [25分]	②【資料提示】【作業】資料①から、モンゴル軍の戦いの特徴をまとめさせる。 生徒の反応 ◆集団戦法 ◆軽装 ◆短弓 ◆火薬 ③【説明】二度の襲来の経過について説明する。 ④【話し合い】モンゴル帝国の襲来が失敗した理由を問い、グループごとに話し合わせる。 生徒の反応 ◆暴風雨の影響 ◆御家人の活躍 ◆幕府軍の戦術 ◆寄せ集め軍	●「蒙古襲来絵詞」と竹崎季長について説明する。 ●資料②⑥を活用する。 ●モンゴル帝国の三度目の遠征計画が、高麗や中国南部、ベトナムなどの抵抗・反乱によって中止になったことを説明する。
鎌倉幕府の滅亡 [15分]	⑤【発問】資料⑦などから、幕府が滅亡した理由を考えさせる。 「幕府が滅亡した原因は何だったのでしょうか。」 生徒の反応 ◆分割相続で御家人の生活が苦しくなった ◆近畿地方に悪党が現れた ⑥【発問】後醍醐天皇に味方した人々の共通点を問い、考えさせる。 「後醍醐天皇に味方した人々の共通点は何でしょうか。」 生徒の反応 ◆幕府へ不満を持つ人々 ◆幕府に従わない人々	●北条氏の専制政治が、困窮した御家人の反発を買ったことに触れる。
学習のまとめ [5分]	⑦【作業】📄の問いに取り組みさせる。 📄 解答例：モンゴルの襲来での負担が大きく、恩賞が不十分だった。／分割相続で領地が次第に小さくなっていった。	

板書例

1. モンゴルの襲来と日本②

モンゴル帝国の襲来はどのようなもので、日本にどのような影響をあたえたのでしょうか。

〈二度の襲来〉…元寇

○元の使者←執権北条時宗は無視

○文永の役(1274年)

- ・元軍→博多湾岸に上陸
- ・元軍：集団戦法、幕府軍：一騎打ち
- ・短い弓、火薬

○弘安の役(1281年)

- ・海岸に防壁→モンゴル軍、上陸できず
- ・三度目の遠征→中止

〈鎌倉幕府の滅亡〉

○幕府への不満

- ・分割相続→御家人の窮乏→徳政令の失敗
- ・北条氏の専制政治→有力御家人の不満増大
- ・悪党の活動

○後醍醐天皇の倒幕計画

- ・悪党、有力御家人の参加→鎌倉幕府滅亡(1333年)(楠木正成、足利尊氏ら)

